

日本ヒューレット・パッカート、通信事業者のネットワーク運用業務を簡素化

- 「HPE Service Director」により、従来の物理環境(PNF)と仮想環境(VNF)をまたがるハイブリッドなNFV環境の管理を支援 -

2016年2月18日

日本ヒューレット・パッカート

日本ヒューレット・パッカート株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長執行役員:吉田 仁志、以下 日本ヒューレット・パッカート)は本日、包括的なサービス運用を実現し、物理的なネットワーク環境と仮想環境が共存するハイブリッドネットワーク環境のサービス管理で通信事業者(CSP)を支援する新たなソリューション、「HPE Service Director」を発表しました。「HPE Service Director」を利用することで、通信事業者は、ネットワーク機能仮想化(NFV)の導入環境における物理環境と仮想環境の両方のサービスをシームレスに管理でき、運用サポートシステム(OSS)の自動化を可能にします。

NFVは、新サービスの展開をより迅速に、かつ低コストで実現できることから、通信事業者にサービスのアジリティ(俊敏性)、および収益の増加といったビジネス上の大きなメリットをもたらします。しかし、OSSの仕組みと、物理および仮想環境が共存する状況では、サービスのアジリティの妨げとなるだけでなく、市場投入までの時間を遅らせる要因となりかねません。そこで、こうした要因を取り除き、包括的なサービス運用に向けた新たなアプローチが求められます。

ヒューレット・パッカート エンタープライズ(HPE)の通信・メディアソリューションズ担当バイスプレジデントであるデビッド・スライター(David Sliter)は、次のように述べています。「今日、通信事業者におけるOSSはサイロ化しており、新サービスの導入にあたっての選択肢が制限され、NFV化へのプロセスを成功させる上で大きな課題となっています。当社のHPE Service DirectorというOSSに対するアプローチは、よりダイナミックなサービスモデルで通信事業者のNFVへの変革を支援し、サービス全体のアジリティを大幅に向上させます。」

<ハイブリッドネットワークの運用管理を大きく改善>

「HPE Service Director」は、「HPE NFV Director」の機能をさらに拡張し、仮想環境と物理環境の両方において、より効率的なオーケストレーションを実現します。主な特長は以下の通りです。

- ・ 自動化 - アシユアランス(サービス保障)やフルフィルメント(サービス展開)の業務をクローズドループで自動化することにより、運用を統合します。
- ・ 情報共有 - 共通のデータを提供することで、品質や精度、および一元的な管理を保証し、包括的なビューを通じて生産性を向上させます。
- ・ ダイナミックサービスディスクリプタ - オープンかつ柔軟なモデリングにより、通信事業者が提供する様々なサービスについて、サービス相互の関連性や動作状況を管理できます。これにより、運用のアジリティを更に高めることが可能です。

<販売開始予定>

「HPE Service Director 1.0」は、2016年の前半に全世界で提供開始を予定しています。また、「HPE Service Director for vCPE 1.0」を筆頭に、基本製品の拡張版として特定の用途に対応し、導入後すぐに運用可能な構成済みのソリューションを提供する予定です。

■ プレスルーム

<https://www.hpe.com/jp/ja/newsroom.html>

#

文中の社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

■ お客様からのお問い合わせ先

カスタマー・インフォメーションセンター

TEL: 0120-268-186 (携帯、PHS: 03-5749-8279)

ホームページ: <http://www.hpe.com/jp/>